



国土地理院 (←が赤城山と赤城神社)

<https://maps.gsi.go.jp/#17/35.846635/139.899548/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c0g0j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>
参照日2023-5-30

令和五年四月、流山市の人口は二十一万人を超えました。豊かな自然が残る「都心から一番近い森のまち」流山市。今号では、流山の地名とゆかりが深いと考えられている赤城山（あかぎさん）と赤城神社についてご紹介します。

赤城山と赤城神社

「流山」という地名の由来の地

郷土かわらばん

赤城山

流山本町の南に、ぼつんと離れ島のように小高く盛り上がった山が「赤城山」です。ふもとの高さは約十メートル（標高約十五メートル）、ふもとの周囲は約三百五十メートルあり、低地に広がる街並の中で小高く盛り上がった豊かな緑の山はひときわ目を引きまます。山はムクノキやケヤキの大木をはじめとする約三百五十本の樹木に覆われ、鎮守の森を形成しています。この「赤城神社の社叢林」は、市指定天然記念物に指定されています。

伝説

赤城山の山頂にある、文化十一年（一八一四）の「赤城祠碑」の碑文には、建長年間（一一四九～一五六年）に上州（群馬県）の赤城山の一角がくずれ、ここに流れついたと書かれています。また、この山に生えている熊笹は、上州赤城山の熊笹と同じ

赤城神社

山頂の赤城神社におまつりしてある神様は、大己貴命（おおなむちのみこと）と豊受姫命（とようけひめのみこと）です。境内は六百九十坪（約二千二百七十七平方メートル）、長い参道を進むと赤城山に登る急な階段となります。階段周辺には、小林一茶の句碑など様々な石造物があり、歴史を物語っています。

種類だといわれています。別の言い伝えによると、洪水で流れついた上州赤城神社の御札がこの山のふもとに流れついたのを、村人が拾いあげておまつりしたのが赤城神社の始まりだとも伝えられています。いずれにしても、上州赤城神社とかかわりの深い物が「流れついた山」という伝説、これが地名のいわれとされています。

拝殿は間口五間（約九メートル）、奥行三間（約五・四メートル）、本殿は間口一間（約一・八メー

森の図書館
twitter
@N_mori
noto



発行
流山市立
森の図書館
指定管理者
株式会社
すばる

トル)、奥行一間で、周囲に腰縁を回し、正面は向拝がつき、反りのある橋掛かりで拝殿と繋がっています。本殿は寛政元年(一七八九)の棟札から江戸時代中期の建築とわかります。建物上段は彩色の施された彫刻で埋め尽くされており、下段は檜(けやき)の彫りを見せるため素木造りとするなど、江戸時代中期の特徴をよく表しています。建築年代や大工棟梁、彫刻棟梁の名が記された現本殿建立時の棟札と本殿奉納を記した木札、前本殿建立時の貞享元年(一六八四)の棟札は、神社の歴史を示す貴重な資料です。また、本殿と拝殿を橋掛りで繋ぐ社殿形式は珍しいものです。これらのことから市指定有形文化財(建造物)に指定されています。

赤城神社の祭り

赤城山のふもとの鳥居の前には、大しめ縄が奉納されています。しめ縄は神社や神聖な場所に懸け渡し、内外を分け、不浄なものを遮るもの。赤城神社の大しめ縄は、十月第三土・日曜日の祭礼に先立ち、神社の清掃や祝祭などが行われる宮籬(みやなぎ)の日(第二日曜日)に、氏子や流山五く八丁目自治会総勢約三百人が力を合わせてつくりまします。

竹で芯をつくり、その周りに藁をまいて、その上からびっしり縄を巻き付け一本の大縄が出来上がります。これを三本つくってより合わせると、大しめ縄が出来上がります。長さ約七メートル、太さ一メートル、重量約五百キログラムの大しめ縄は近郷でも最大級のもので、この「赤城神社大しめ縄行事」は、市指定無形民俗文化財に指定されています。

また、毎年一月二十日には「おびしゃ行事」があり、緒ヶ崎雷神社のような歩射を行います。

このほか、「代々講」という講中もありましたが今はなくなり、現在は五年に一度、本家とされる群馬県赤城神社に氏子の代表者が参詣に行っています。

赤城神社

「発見われらの流山」
46 ページより引用



赤城祠碑

「流山の地名を歩く」
42 ページより引用



参考文献

- ・『流山の昔をたずねて』 流山市役所 流山市教育委員会 斎書房 1971年
- ・『ながれやまの民話 ⑦流れてきた山』 流山市商工課 1993年
- ・『東葛なぞふしぎ事典 東葛流山研究 第二十号』 流山市立博物館友の会 斎書房 2001年
- ・『楽しい東葛ウォーク事典 東葛流山研究 第二十七号』 流山市立博物館友の会 斎書房 2009年
- ・『発見われらの流山』 流山市教育委員会 2007年
- ・『楽しい東葛伝説民話事典 東葛流山研究第二十九号』 流山市立博物館友の会 斎書房 2011年
- ・『流山の地名を歩く 流山市立博物館調査報告書二十九』 流山市教育委員会 流山市立博物館 2014年
- ・『流山建物ア・ラ・カルト 流山市内建物調査集成 流山市立博物館調査研究報告書三十』 流山市立博物館 2015年
- ・『チエック! 流山のむかし』 流山市立博物館 流山市教育委員会 2016年

いずれも流山市立図書館の所蔵資料です。

協力・流山市立博物館